

# 恋する川柳物語かわら版



## 其の二十八

第二十七回 「恋する川柳」——【夏】あなたと

鮎む川柳編——の応募作品集です。恋する気持ちを詠む川柳

「恋する川柳」夏編では、『鮎（あゆ）』という言葉を句に詠

み込むというお約束でしたね。

いやはや、今年の夏も尋常でない暑さでしたね。「こんな異常気象は今までにはなかつたぞ」と思いつつ、ふと昨年の夏の川柳物語かわら版を開いてみると：なんてことはない。去年もやっぱり「異常」だの「暑過ぎる」だの、言つてることとは大して変わりありませんでした。ガックリ。

でも今年は四十市で国内最高気温出ました————！ 41℃の世界をどなたか体験されたら、ぜひとも感想をお聞きしたいものです。それでは、四十と同じ鮎の町河原より、犠牲になつてしまつた鮎と関係者の方々に、心より御見舞いを申し上げるとともに、生き延びている鮎たちにエネルギーを送りながら残りの酷暑を乗り切りたいと思います。みなさまもどうぞご自愛くださいね。

## 【応募作品一覧】

- ◆ 帰り道 デートの歩み 遅くなり (P・N 小星)
- ◆ 体育祭 行進曲が 今もキュン♥ (P・N 夕樹)
- ◆ 爽やかな 鮎の香りの 君に恋 (P・N 琴音翼)
- ◆ かわはらの 水にたわむる 鮎いとし
- ◆ 鮎はねて 河原の里 夏来たる (京都府)
- ◆ 恋女房 共にあゆんだ 我慢力 (鳥取県)
- ◆ 「あゆ」という姪あり 子連れバツイチ 跳んでます
- ◆ 道するべなき道を 手さぐりで 歩んでる (P・N うちゃん)
- ◆ かわはらの 水にたわむる 鮎いとし
- ◆ 夏の鮎 川のダイヤに ふさわしい
- ◆ 夏涼み 川面にはねる 鮎花火 (大阪府)
- ◆ 初恋は すずろに汗の 落ゆ(あゆ)すなり
- ◆ 天狭き 峠歩む日の 初デート (P・N 茶々丸)
- ◆ 薄衣の 君の裳ぬれし 鮎の川
- ◆ 鮎の瀬に 二人で立ちし 夏休み (P・N かぐや姫の帝)
- ◆ 鮎逃げた 清流恋し 深夜ショリー (P・N 暮色の天使)

四季の風 棚田と螢と 歩む里  
ありがとう 私と歩む 影がある (岡山県)

この道を いけば逢えそう 恋螢

初螢 むかしの淡い 恋でした (岡山県)

釣知らん 鮎の講釈 塩加減

娘への愛 今日は父の日 ズボン履く (兵庫県)

気になる娘 夏合宿で 近くなる (P・N どんどん)

夕顔が 咲くまで 待つてくれないか

渚から 女の叫び声がする (鳥取市)

夏の恋 線光花火 ほどの恋

(P・N 岩美のおぼっちゃま)

釣り立ての 鮎の塩焼 舌つづみ

夏ですね 釣り人達ちが 鮎をつる (鳥取市)



◆ 川底の 飛びつくような 鮎恋いし (P・N曲者)

◆ 歩む道 重なる日が来る いつの日か (P・N道のり遠し)

◆ 歩み止め 一服の茶で 心潤す (P・N曲者)

◆ 見せたくて 蛍の居る場所 探してた

◆ 藪蚊らの 御陰で台無し ふたりきり (P・N演出家)

◆ 歩む道 重なる日が来る いつの日か (P・N道のり遠し)

◆ 藪蚊らの 御陰で台無し ふたりきり (P・N演出家)

◆ 夏祭り 浴衣に花火 髮飾り (P・N guamkai)

◆ つなぐ手の 汗だけは気に ならぬ夏

(P・N速乾ボーキ)

◆ 釣った鮎 挿いてくれる 我が女房

◆ 釣竿が ムズムズしてて 鮎に恋

◆ 無理をせず 每日一步 ずつ歩む

◆ 若鮎の 娘に男 群がって (P・Nぶちの白馬)

(P・Nクンタ・キンテ・ジャパン)

◆ 釣った鮎 挿いてくれる 我が女房

◆ 釣竿が ムズムズしてて 鮎に恋

◆ 釣った鮎 挿いてくれる 我が女房

◆ 釣竿が ムズムズしてて 鮎に恋

◆ 夏が来た 今年こそはと 水着買う (P・Nぶよ)

◆ 釣られてる 鮎もどきでも 恋釣ろう (P・N小言悠三)

◆ 夏花火 君の前では色霞み (P・N鬼小町)

◆ 釣られてる 鮎もどきでも 恋釣ろう (P・N小言悠三)

◆ 夏花火 見上げる君に 惚れ直す

◆ 釣られてる 鮎もどきでも 恋釣ろう (P・N小言悠三)

◆ 敏感な 鮎釣りデート 目で合図 (P・Nかよこ)

◆ 釣られてる 鮎もどきでも 恋釣ろう (P・N小言悠三)

◆ カップルで 鮎の笹焼き おつなもの

◆ 釣られてる 鮎もどきでも 恋釣ろう (P・N小言悠三)

◆ ふる里に あのマドンナと アユがいる

◆ 釣られてる 鮎もどきでも 恋釣ろう (P・N小言悠三)

◆ 星の降る 川辺に群れる 鮎と恋 (P・N高瀬舟)

◆ 釣られてる 鮎もどきでも 恋釣ろう (P・N小言悠三)

◆ 退職後 ボランティアで 妻と歩む (P・Nよつは)

◆ 釣られてる 鮎もどきでも 恋釣ろう (P・N小言悠三)

◆ 七夕に 恋の願いを 託します

◆ 釣られてる 鮎もどきでも 恋釣ろう (P・N小言悠三)

◆ 夏の恋 線香花火 はじけるよ (P・N恋する乙女)

◆ 釣られてる 鮎もどきでも 恋釣ろう (P・N小言悠三)

◆ 遷上鮎 恋の行方も 占つて (P・N恋する乙女)

◆ 釣られてる 鮎もどきでも 恋釣ろう (P・N小言悠三)

◆ 人あゆみ 米寿と卒寿の 粋な仲 (P・Nきゅうらの風)

◆ 人あゆみ 米寿と卒寿の 粋な仲 (P・Nきゅうらの風)

◆ 小麦色 今じゃ死語かも 僕は、好き

◆ 猛暑ゆえ? とろける2人 発熱中♪ (P・Nお酢)

◆ キスをして 君の気持ちと 同期する

◆ 笑うだけ 笑ったあの 君がいい (P・N 雄之介)

◆ たがえども 歩みし恋路 忘れ得ぬ (P・N 尊の君)

◆ 携帯と 団扇で結ぶ 夏の恋

◆ 遠花火 遠くなるほど 愛しくて (P・N すふいんくす)

◆ 彼の岸に 鮎見を誓う 天の川

(P・N M i x Y O U + h)

◆ 三十年 ともに歩んで とも白髪 (P・N ゆうな)

◆ 花火より 君を見ていた 夏祭り

◆ 鮎を食う 夫婦清流 旅の宿 (P・N 一本木)

◆ 海月から 君を守った 土用波 (P・N しげのり)

◆ 離れても 心がつなぐ 歩む糸 (P・N れんこ)

◆ 日焼けした 水着のあとは 去った恋 (P・N 氷川の杜)

◆ かがり火や 寄り添う影に 鮎跳ねて (P・N ちいじじ)

◆ 父と母 正座の君と 鮎もなか (P・N かわちゃん)

◆ 退屈な あなたを見ない 夏休み

◆ 夏祭り あなたと歩む 初デート (P・N ひみこ)

◆ 浴衣着て 酔する妻に 惣れ直し (P・N 木の影)

◆ 夏祭り 切れた鼻緒が 結ぶ恋 (P・N 山野ことり)

◆ 肩寄せて 川原を歩む 影がゆく (P・N 角 奈緒也)

◆ 河原は あなたと歩む アユの町

◆ 恋う人と 歩む浴衣に 遠花火 (P・N やまちゃん)

◆ 鮎釣りで わが身釣られし 暑い夏

◆ 若鮎の 泳ぎ涼やか 君想う (P・N 播磨男)

◆ 教会で 誓ったあの日 歩む道 (P・N りちゃん)

◆ 夏の海 二人で浜に 寝そべって (P・N 瑠珀)

◆ 歩み止め 涼んでゆこう 『かわはら』で

◆ なんのその 君と一緒に 歩むなら (P・N とんちゃん)

◆ 七夕に 彦星傘さし やってきた (P・N だー)

◆ 食べたよね 一年前に 鮎料理

(P・N 恋歌 (れんか) ともや)

◆ 七夕に 彦星傘さし やってきた (P・N だー)

◆ 食べたよね 一年前に 鮎料理

(P・N 恋歌 (れんか) ともや)

◆ 猛暑にも 負けぬ彼への 恋メール (P・N 白猫)

◆ 夏の恋 一目ぼれして 波に消え (P・N さちみ)

◆ 赤い実が 弾けて、あゆむ 二人道 (P・N 百合紅葉)

◆ 餅じゃなく 焼くなら美味しい 鮎を焼け (P・N よし得)

◆ 間違えて 鮎が好きだと プロポーズ

◆ 沿衣着た 釣ったさかなに 鮎食わす

◆ 沿衣着た アユを河原に 誘い出す (P・N 世の介)

◆ 塩焼きの 昔を偲ぶ 鮎の味 (P・N 雪子)

◆ 夏好きな あなたのすべて 好きになる

◆ アユタヤに 今年の暑さ 負けてない (P・N 老虫)

◆ 一夏の 恋を楽しみ ゴールイン (P・N クジラ)

◆ 夏の恋 去つてぽつかり こころ空き (P・N はらっぱ)

◆ 清流に 泳ぐあゆ見て あの女(ひと)を (P・N 畑耕作)

◆ 百点を 求めず歩み 三十年 (P・N山ごぼう)

◆ せつかちと おひとり型で 歩んでる (P・Nみずなす)

◆ あの日から 鮎子でデビュー しています

(P・N京のみっちゃん)

◆ フーアーユー この一言が きっかけで

(P・N船岡五郎)

◆ 鮎もなか 負けない甘さです ふたり

◆ あなたとの 恋は花火の ようでした

(P・N岡山のみっちゃん)

◆ 若鮎は 君の喰えと 知るまいが

◆ 若鮎の 苦さの美味を 知る歳か (P・Nかずちゃん)

◆ 潮騒に 好きだと叫ぶ 今年また

◆ ひと夏の 恋を重ねて 三十路へと (P・N悠々愛々)

◆ 若鮎になつて 飛び込む 彼の胸 (P・Nかたおもい)

◆ 鮎のよな スタイリッシュな 君に夢中

◆ 鮎の骨 拠かれて恋も 骨抜かれ (P・Nたかさま)

◆ 友釣りで 恋のオトリに された僕

◆ デートする 小柄な君に 歩を合わせ (P・Nすみれ)

◆ 恋に似て あゆの塩焼き ほろ苦い

◆ 夏の恋 痛みを残した 日焼け跡 (P・Nふう)

◆ 歩み寄る 始めの一歩 ドキドキ感 (P・Nせんちゃん)

◆ ひと夏が 終わる恋にも 逢いもせず

◆ 熱き胸 波打ち際に 置いてゆく (P・Nあーきまま)

◆ 鮎跳ねる 流れのような 清き恋

◆ 手をつなぎ 歩む夫婦の 喜怒哀楽 (P・N小田慶喜)

◆ 歩みたい 君と二人の 恋の路 (P・N真田菜摘)

◆ 一步ずつ 歩み家族の 歴史かな

◆ 鮎焼いて ビール片手の 川デート (P・N小田和子)

◆ 夏日の 火傷に痛む 身と心 (P・Nりーちゃん)

◆ 肩の手を するりとかわす 若鮎ちゃん

◆ お互いの 指を編みつつ 歩む道 (P・Nほるへ)

◆ 向日葵が 見てた幼き 夏の恋 (P・Nあいらむ)

◆ 畑借り 妻と野菜に 歩みより (P・Nほにやらか)

◆ 大国に 肖ゆと打ち出の 小槌振る (P・N三つ柏)

◆ ここは俺 おまえはあっち きゅうりの香

◆ 強い恋 やつと手にした 繩張りで

(P・Nもにかとなら)

◆ 君に似し 姿目で追う 初夏の街

(P・Nチュン子すずめ)

◆ 小紫 傀ぶ面影 つゆの草 (P・N長男ヒロタン)

◆ 夏来る あなたと歩む 河原町

◆ この一生 あなたと歩む いつまでも (P・N雀の涙)

◆ プロポーズ 鮎も聞いてる 恋の川

◆ 鮎はねる 恋する川原 飛ぶ二人 (P・Nヒデジイ)

◆ こっそりと 恋を演出 夏の月

◆ 良く冷えた お茶を渡して 照れる指 (P・N汐海岬)

◆ 同じ道 君と歩んだ 夏の夜 (P・N臨海和笑)

◆ 汗だくで 応援したよ 甲子園 (P・N 真昼)

◆ 初恋は 籠目籠目の 遠い夏

◆ 焦れつたい 恋へ弾けた 大花火 (P・N ほろ酔い)

◆ 肩ならべ おなじ人生(みち)を いざ歩まん (P・N ジョイン)

◆ もう一步 大人の恋は 歩み寄り (P・N ふつきー)

◆ 彼よりも アユの塩焼き 恋しくて (P・N ター坊ママ)

◆ 淡い泡 ビールの苦さと 若い恋 (P・N カエッチクン)

◆ グランドに 若鮎跳ねる 炎天下

◆ 弹む下駄 寄り添い歩む 夏まつり (P・N 東葉)

◆ 本命を 忘れ友釣り 相手変え (P・N おじやすか)

◆ 淡衣着て はしゃぐデートは いつの頃 (P・N ジョイン)

◆ 鮎の腸(わた) 乙女の知らぬ 恋の味

◆ 失恋を 重ねてうるかの 味を知る (P・N 紫よん)

◆ 子の成長 鮎塩焼きへ 蓼酢かけ

◆ 箸使い 鮎塩焼きで 君試す (P・N とれびの)

◆ 鮎苗(あゆなえ)へ アユノミクスを 皮算用

◆ 背越し鮎 C Tスキヤンの 鮮画像

◆ 肩と頬 触れて川面に 鮎探す

◆ 鮎跳ねて とたんに絡む 細い腕

(P・N いしづわ こーど)

◆ 歩んでる 君と僕との 二人旅

◆ よちよちと 歩んで笑う 一歳児 (P・N すんまそん)

◆ 体力を まず作りたい 夏の恋

◆ 炎天下に 働く君に 恋をする (P・N かきくけ子)

◆ 恋(鯉)育ち 鮎跳ね踊る 河原町 (P・N ヒメ父)

◆ L O V E の文字 背中に浮いた 日焼け跡 (P・N 小夏)

◆ 占なえば あなたと歩む 未来へと (P・N たかちやん)

◆ 逢いたいが かわはらまでは 遠過ぎて

◆ 授業中 鉛筆落として 気を引いた (P・N とんとん)

## 【番外編】

◆ この暑さ 四十万の“鮎” 顔見せず (P・N 橋 舞衣)

◆ 倦怠期 ココロの鮎を 飼い慣らす (P・N 夏舟)

◆ ただの道 あなたと歩む 天の川 (P・N こりんご)

◆ 鮎跳ねて あの子の笑顔 いつ戻る (P・N れんじい)

◆ 歩もうよ 足の短い 僕だけど

◆ 日焼けした カレの笑顔に 片思い

◆ 愛してる その一言に 溺れそう (P・N ぼっち)

◆ 鮎燐々 味よし顔よし 姿よし (P・N ワンマン)

◆ あなたって 鮎の気持ちは 分かるのね (P・N 好日郎)

◆ 河川敷 歩む歩幅が いつしか同じに (P・N ゆっけ)

◆ 淡い泡 ビールの苦さと 若い恋 (P・N カエッチクン)

◆ 淡衣着て はしゃぐデートは いつの頃 (P・N ジョイン)

◆ 二人から 共に鮎むは 三人に

◆ 荒波を 防ぐあなたは 防波堤 (P・N みやんくん)

◆遠い恋 夢の校舎で よみがえる (P・Nピノコ)

(P・N花咲き夢子)

◆あの頃の 逢瀬の時間 レモン味 (P・Nクン太のママ)

◆もう少し 歩けば好きと 言えるかも  
愛に恋(来い) 眠れぬ恋の物語 (P・Nみつかいかさ)

◆母の歩に 合わせて歩く 心地よさ

◆未来へと きっと続くよ その一步 (P・N清詩薰)

◆恋焦がれ 熱き語らい 紡ぐ声 (P・Nれんこ)

◆キスをして 魔法をかけして 忘れたい (P・Nみきりん)

◆恋をして 恋の意味を 辞書で引く (P・NAG180)

◆さあ夢の 続きをしよう キスしよう (P・N鼓吟)

◆避難先 恋する街に なりました

(P・N京のみっちゃん)

◆アルバムの 顔かおカオア アイラブユー

◆鮎料理 実は母親作だった (P・N岩美のおぼっちゃん)

◆『一言』鮎のうるかとか? それならバレバレだね♪

◆近すぎて 離れて感じた この気持ち

◆『一言』女性スタッフの黄色い悲鳴が一斉に上がった!

(P・N名寄のやっさん)

◆アルバムに 眠るデートの 香を偲ぶ

◆歩む幅 合わせてほしくて シャツつかむ (P・N夏梅)

◆『一言』この女心も分かる! 女性一同を唸らせた作品。

(P・Nかたおもい)

◆朝顔に 右へならへと 恋心 (P・Nせんちゃん)

◆『落ちないで』 線香花火 願かける (P・Nりちゃん)

◆『一言』この乙女らしい願掛けは何歳まで可能かしら?☆

(P・Nりーちゃん)

◆黄昏の 恋も華やぐ 河原沿い (P・Nあや)

◆『一言』これぞ田舎ならではのロマンスですよね♪☆

(P・N青虫)

◆忘れてる ようで忘れぬ 幼き恋 (P・Nわやん)

◆告白を とまどう夏の 大三角 (P・Nあいらむ)

◆『一言』この後のドラマチックな展開に期待大! ですね。

(P・N青虫)

◆年老いた 父の日に贈ってあげたい: そんな優しい一句。

◆ロスタイル 線香花火 落ちるまで (P・Nたんご人)

◆『一言』どんなスポーツよりも緊張感漲る一瞬です!

◆恋川柳 出したが縁で 結ばれて (P・N臨海和笑)

※以上十名様には、秀句としてミニミニモアイをお贈りします。また、今回も優秀な作品が多く、惜しくも特別賞に届かなかつた次の三名の方の作品も、チ特別賞としま

# 道の駅の活動をちょこっとご紹介(^^)♪

## 古民家と地域住民との関わりに触れて楽しむ旅

A group of people, including children and adults, are gathered in a room with large windows, working on a craft project involving colorful, spherical objects. A red dashed circle highlights the date '7/14(日)' in the top left corner.



道の駅が主宰している「いなばスローツーリズム交流会」のメンバーと一緒に、道の駅のツアー企画としては初の「ワークショップ体験」つきツアーに行ってきました！ツアータイトル通り、見学だけで終わらない古民家巡りツアーということで、見学のほかに、民俗行事や歴史に触れたりギャラリーやイベントスペースとしても活用されている古民家でのものづくりを体験したりといったメニューも追加しました。

写真は、用瀬町屋住の長谷川邸でのワークショップの様子です♪ 麻紐を使ったランプシェードとモビール作りに挑戦したのですが、この日一番の盛り上がりを見せました。



現在「地域の学び舎・水辺の学縁」プロジェクトがじわじわと進行中です。様々な教室やツアーを通じて、地域の人材や観光資源の魅力を地域内外に発信し、より親しみやすい道の駅の交流の場となるよう、学縁のアイドルとして活動と一緒に盛り上げてくれるマスコットキャラクターと愛称を募集します■

～“地域の学校”を目指して～  
「水辺の学縁」プロジェクトでこんな事しま  
本♪

1. 主にものづくりを学ぶ「ゆるゆる田舎塾」、「八上姫講座」
  2. 広い意味での社会見学が中心となっている「いなばスローツーリズム交流会」
  3. スポーツ教室のような屋外実習による「水辺プラザ青空教室」
  4. 野菜ソムリエを招き、地域の生産地を実際に訪ねて行う「収穫から行う田舎の料理学校」
  5. 地元の幼保園や小学校の子どもたちを道の駅に招いたり、教育現場に出向いて行ったりする食育指導士による「食育セミナー」

by. KISAKI HIMEKO  
(郷土神話観光  
コーディネーター  
☆)

マスコットキャラ募集に地域同士の縁結びの学校づくり…等々と、今年は既存の「郷土神話観光」の企画枠を飛び越えて、様々な新分野で新たな企画の花が一気に開花した年になりました。(なぜか今年の事が既に過去形(笑)。)

これまでに生きてきたものを温めながら、常に新境地を開拓していく…。行政と地域が一丸となって郷土神話観光に取り組んでいる所ではない限り、やはり限界が見えてくる…道の駅がオープンして7年を迎える今、そんな現状にモヤモヤした思いを抱えながら、『温古新作』な企画作りに励んでいます! (^^)!

なお、紙面のスペース上、多数にわたるご応募の方につきましては、掲載を二句までとさせていただいております。悪しからずご了承ください。また、作品にペンネーム（P.N.）の付していないものについては、宛先のみご紹介させていただいています。

また、抽選の結果発表については、発送をもって代えさせて頂きます。次回の【秋】「は梨（話）ふくらむ川柳」編は九月に募集しますので、お見逃しなく☆

